

南京都病院ニュース

2019 新年号
No.53

National Hospital Organization Minami Kyoto Hospital News



新年、明けまして おめでとうございます

国立病院機構南京都病院 院長 宮野前 健

新しい年を皆様は如何お迎えになったでしょうか。

日本は四季折々の自然環境に恵まれている一方で、自然災害に見舞われることもあります。昨年、近畿では6月18日の大阪北部地震があり、震源から20kmの当地でも大きな揺れ(震度5弱)を経験しました。幸い病院のライフラインには影響はありませんでしたが、阪神淡路大震災以来の大きな揺れで、改めて大規模災害対策の重要性を感じました。また9月末には台風24号がほぼ直撃する形で通り過ぎ、当院に通じる道の一部も倒木のため一時通行止めになりました。災害は何時いかなる形で起こるか判らず、大規模・局地的な自然災害に対しては地域の先生方と連携を密にして、在宅医療・介護を受けておられる地域の皆様が安心できるように体制の整備に努めてまいります。

この平成の30年間で我々を取り巻く社会環境、また医療環境も大きく変化してきました。ポケベルも携帯電話も無かった時代、どの様に連絡を取り合い、情報を交換していたのか、今となっては想像すらできなくなりました。この時代のなかば平成16年、当院は国立療養所から、全国146施設が一法人となった国立病院機構に組織替えがあり、病院運営は大きく変わりました。その変化の中で7年前に、老朽化した3つの病棟を西病棟として集約化し、昨年1月には新外来・管理棟の運用も始まりました。主な建物整備は完了いたしましたので、今後は病院敷地の美化を含め、療養環境の一層の整備を図ってまいります。

今年は平成の年号で迎える最後の年で、5月より新たな年号がスタートいたします。

これからの地域社会は一層の高齢化時代を迎え、高齢者の予後やQOLに大きく関係する慢性閉塞性肺疾患(COPD)や肺炎などの呼吸器疾患や肺がんが確実に増加していきます。また神経難病や認知症の増加も避けて通れません。そのため圏域ごとに地域医療計画(ビジョン)に基づく、病院・病棟の機能分化や地域包括ケアがますます進むことでしょう。その流れの中で、地域医療の第一線を担っておられる先生方と連携して、当院の持つ専門機能をどの様に活かし、情報発信をしていくかが問われる年になるでしょう。

地域で生活されている障害児(者)への在宅支援を含め、地域の先生方のお力をいただきながら保健・福祉行政とも連携をとり、地域の医療や災害対策に尽力してまいりたいと考えております。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

診療科名を「脳神経内科」に変更しました



臨床研究部長 川村 和之

南京都病院神経内科は、日本神経学会の決定に従って、平成30年11月1日より診療科名を「脳神経内科」に変更しました。従来の神経内科という名称はしばしば心療内科や精神科と混同され、専門医療を必要とする患者さんが適切な時期に適切な医療を受けることができない一因となっていました。この変更は、脳神経外科と対比的な名称にすることで、神経内科が内科的な専門知識と技術をもって脳・神経疾患を診療する診療科であることを明確にすることを目的としています。

平成30年度は脳神経内科スタッフにも大きな異動があり、常勤医6名体制となりました。岡伸幸先生が京都近衛リハビリテーション病院院長として転出されますが、京都大学大学院を卒業した太田真紀子先生、丸瀨伸一郎先生、宇多野病院院長を停年退官された杉山博先生が新たに着任されました。6名全てが日本神経学会専門医であり、質的にも量的にも山城地域の中核病院に匹敵する診療体制となりました。

診療の中心はこれまでと同様に神経・筋難病に対する専門的医療の提供ですが、その幅を生活習慣病や睡眠障害の予防・管理を含めた総合的なものとし、認知症診療やてんかん診療を強化して、地域医療により貢献できるよう努力していきたいと思います。



脳神経内科 杉山 博

昨年の9月に宇多野病院を退職し、5年半ぶりに南京都病院に戻ってきました。私は神経難病の患者さんを多く診てきましたが、当科では脳・神経の病気全般を診ています。現在、ベテランから若手までバランスよく人材が揃っており、得意分野も様々ですので、お互いカバーしながら診療しています。この症状は脳？神経？と思われたら一度受診をお勧めします。

脳神経内科 太田 真紀子

2018年3月1日から赴任しました。京都生まれ京都有ちです。内科認定医、神経内科専門医・指導医です。2013年8-9月に、当院に常勤医として診療応援に来ておりました、4年半ぶりにご縁あって再び参りましたら、病院がきれいになっていて新鮮な気分で診療にあたっております。外来は月曜日と水曜日の午前外来を担当しております。

今後ともよろしく願いいたします。

趣味 カフェ、パン屋さんめぐり、旅行



脳神経内科 丸瀨 伸一郎

戸籍上は JIS 第三水準の瀨ですが、普段は簡単な浜を使っています。2005年卒で岡山県出身です。南京都病院には2018年4月1日から勤務しております。趣味のドライブで国道24号や国道307号をしばしば通っていたので、着任の話を頂いたときは妙な親近感がありました。多系統萎縮症をテーマに研究しておりましたが、神経疾患全般について対応したいと思います。今後ともよろしく願いします。

第72回国立病院総合医学会を開催しました

院長 宮野前 健

「多様性の中に個が輝く～私達の医療を推進します～」をテーマに第72回国立病院総合医学会が11月9日10日に神戸ポートアイランドで小西郁生会長（京都医療センター院長）の元で開催され、当院は副会長施設として学会の企画・運営に携わりました。この総合医学会は、国立系医療機関である国立病院機構141施設と国立ハンセン病療養所13カ所、また国立循環器病研究センターや育成医療研究センターなどのナショナルセンター病院など合わせて160施設が年に1回集合する言わば“身内の学会”です。各施設さまざまな歴史的な背景を持ち、一般急性期医療はむろん最先端の専門的医療、さらに結核の後継医療として重症心身障害、神経難病や小児慢性疾患を取り入れてきた当院の様な旧国立療養所、またハンセン病の歴史を負ってきた療養所まで、多様な医療を展開してきました。今回の学会テーマである“多様性”はこのような取り組みを端的に現す表現です。

学会ポスターには、様々な生き物たちが、空に海に大地にみんな生き生きと輝いてる様子が描かれ学会の雰囲気を表しています。全国より約7,000人が参加して53のシンポジウムやワークショップ、2,300演題の発表があり活発な議論・情報交換の場となりました。国立病院機構では病院間・診療分野の“横の連携”が密に取りやすく、その特徴を活かした臨床共同研究や教育研修を大きな柱にしています。また当院が担っている重症心身障害児者や神経難病患者さん、在宅酸素・人工呼吸療法を行っている患者さん達の在宅・地域支援にも力を入れています。このような取り組みを1年に1回、一堂に会して発表して意見・情報交換を行い、我々の日々の医療・診療の質向上を目指しています。

国立病院機構の取り組みの一端を紹介させて頂きました。



学会ポスター

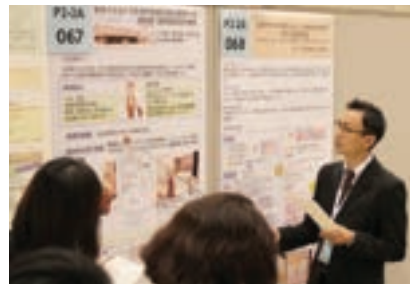
学会の風景

教育担当看護師長 金田 淳子

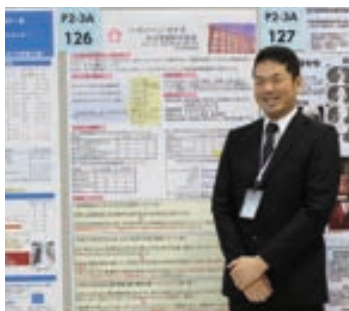
南京都病院からは口演、ポスターセッションを合わせて24題、日頃の成果についての発表を行いました。発表だけでなく、座長や自部署の発表の応援を兼ねた聴講と多数の職員が参加しました。



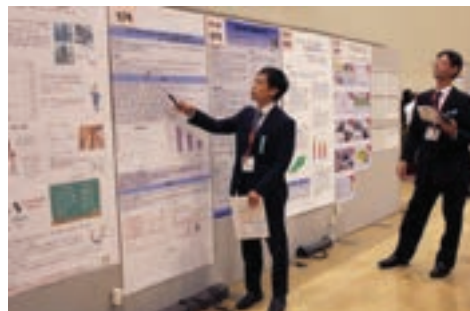
病棟の看護師が発表の応援に来てくれました



沢山の聴講者の中で緊張しながらの発表でした



ベストポスター賞を頂きました



上司の座長に見守られながら発表デビュー



おそろいのジャンパーで運営も頑張りました

地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

麻酔科目線からおこなう日常診療を医者人生の集大成として患者様に提供していきたい

ハヤシクリニック

内科 ペインクリニック 整形外科

院長 林 弘毅 先生

アレルギー科



現在のハヤシクリニックがリニューアル開院したのは平成 22 年です。先代が昭和 54 年に旧林医院その後平成元年に林病院を開設しました。当時私は東京都内の大学病院で麻酔科医として勤務し、手術室での麻酔業務や外来ではペインクリニック治療と、さらに病棟や ICU /CCU では呼吸・全身管理をおこなってきました。その当時私には開業する意思がなくずっと関東一円の関連病院での勤務医人生を描いていました。ただ人生にはいろんな出来事が待ちかまえているもので、その後平成 6 年に急遽城陽の地に舞い戻ることとなりました。当時は訳わからずの人生急変状態からのスタートでしたが、どうにか今では過去に得た麻酔科目線での知識・経験を日常の内科、整形外科、皮膚・アレルギー疾患領域の診断に役立つように昇華できていると確信しています。今でも出来るだけ新しい知識と技術を得たいと考え週末は奈良県内の二次救急指定病院で急患対応や病棟管理に出向いています。京都でも近隣の病院や隣接府県の病院と連携し、患者様にとって一貫した安心な診療がどうあるべきかを考えています。南京都病院には以前呼吸器疾患でお世話になっていた入院患者様の所に毎週出向きペインクリニック治療を行わせて頂いてました。地域連携室や訪問看護ステーションのスタッフの方々とも良い形で協力してターミナルケアの在宅管理を互いに盆正月返上でご一緒させて頂いたのも記憶に新しいところです。これからも私自身、一

医師として医者人生の集大成を皆様の支えのもと築けていけたらと願っています。

- 京都府城陽市寺田高田40-13
- TEL 0774-56-6441
- FAX 0774-56-6641

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前診 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/
午後診 17:00~20:00	○	○	○	○	○	/	/

- 休診 日曜日、祝日、土曜日午後



自分らしく生活できるよう、お一人おひとりのご意向に沿った援助を心掛けています

医療法人社団石鎚会 訪問看護ステーション やすらぎ

訪問看護

訪問看護ステーションやすらぎは平成 25 年 10 月に三山木に移転し、独立した事業所となりました。近鉄・JR 三山木駅前に位置しており、最近では実習生や研修生の利用も多くなりました。

スタッフは看護師 8 名ですが、平成 28 年度より理学療法士や事務員も増員し、様々な体調の方の受け入れをしています。理学療法士は主に医療保険



でご利用の方に訪問しており、麻痺がある方や転倒を繰り返している方、膝の痛みがある方などに専門的なりハビリテーションを自宅で実施しています。看護師と連携し体調面の評価がしっかりとできるため、より効果も期待できると考えています。援助の内容は部署内や多職種の連携によりご本人様、ご家族様が安心して利用できるよう一緒に考えて実施しています。なんでも気軽に相談していただき、身近な存在でいたいと思日々頑張っています。初めて訪問看護を利用したいと思っ

- 京田辺市三山木中央1-8-4
- TEL 0774-63-5276
- FAX 0774-63-5523
- 営業日・営業時間
- 月～金 8:30～17:00
- 土 8:30～13:00
- 祝日、年末年始は除く
- (24時間緊急時対応あり)



西病棟3階病棟紹介

西病棟3階 看護師長 川端 成佐

西病棟 3 階には、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病などの神経筋難病や、アルツハイマー型認知症あるいは重症心身障害などを持つ患者さんが入院されています。入院患者さんは、言語障害により意思疎通の図りにくい方が多く、私たち看護師は、患者さんが何を言いたいのか聴く姿勢を常にもち看護を実践しています。患者さん一人一人、パソコンや文字盤の使用などコミュニケーションの方法が違うので、患者さん一人一人にあわせたツールを使用しています。また、自分の意志で体を動かすことができない患者さん、食事介助を必要とする患者さんの日常生活援助では患者さんのペースにあわせながら患者さんの安全を第一優先に看護を行っています。一方、重症心身障害の方には療育室と連携し季節のイベントや野外活動を通し彩のある生活を送れるよう関わっています。最近では高齢化がすすみ、当病棟でも認知症患者さん、神経筋難病に認知症を併発した患者さんの入院が増えています。多職種（医師、看護師、MSW、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）によるカンファレンスで問題を共有し、専門性を生かしつつチームで患者さんに関わっています。また、神経筋難病の患者さんが安心して在宅ですごせるように難病看護師が中心となり京都府看護協会、保健所と連携し地域の看護師、保健師を対象に研修会を毎年行っています。



パソコンでの会話



季節行事



重心呼吸器カンファレンス



神経筋難病研修会

「QC活動とインフルエンザ対策に対する取り組みについて」

感染管理認定看護師 宮川 英和



国立病院機構ではQC活動が奨励されています。当院の「インフルエンザ感染対策の取り組み」が入賞し表彰されました。QC活動とは「第一線で働く人々が、継続的に製品・サービス・仕事などの質の管理・改善を行う」活動です。インフルエンザ感染対策は、職員のみならず、患者・家族の方々に多大なご協力を頂きながら取り組んだ活動だけに、大変嬉しく感じています。

当院は、平成28年度のインフルエンザ院内流行を経験し、より安全な療養環境を目指し、インフルエンザ感染対策改善に取り組みました。当院におけるインフルエンザ感染対策の課題は、「院内へのインフルエンザ持ち込み防止」と、「インフルエンザ発生時の統一した対応」でした。課題解決策として、職員等の就業前健康チェックを徹底し、体調不良者は医療機関受診を基本としました。また、面会制限を行うと共に、面会を希望される方の健康状態を確認し、手指消毒を行った上でマスクを着用して面会をして頂きました。

また、インフルエンザ発生時の統一した対応に向け、「発生時対応表」を作成しました。インフルエンザの発生状況別に感染対策を一覧表にし隔離や予防内服の手順を明確にして、職員に周知しました。これらの対策により、平成29年度は院内インフルエンザ発生を最小限に抑えることができました。患者・家族の皆様には、インフルエンザ感染対策にご協力頂き、改めて感謝申し上げます。

今年度もインフルエンザ、感染性胃腸炎の流行シーズンになります。職員一丸となり感染対策に取り組みますので、今後とも感染対策に対する、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

地域医療連携室の専用番号が開通しました



電話番号 0774-52-0191(直通) ※19:00迄(土・日・祝日は休み)

交通のご案内

● 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
 ● JR 学研都市線 新田辺から 徒歩20分
 ● JR 奈良線 山城青谷から 徒歩20分

*... 各駅より送迎車あり

診療科のご案内

● 呼吸器科	● 脳神経内科	● 小児科
● 内科	● 外科	● 消化器科
● 呼吸器外科	● 循環器科	● 整形外科
● 皮膚科	● リハビリテーション科	● 放射線科
● 麻酔科	● 歯科	● 耳鼻いんこう科

(入院患者のみ対象) (入院患者のみ対象) (休診中)

独立行政法人国立病院機構

南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地
 TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
 URL <http://mkyoto-hosp.jp/>

地域医療連携室

電話受付時間の延長について
 平成30年12月1日から、申し込み受付を19時まで延長させて頂きました。

電話受付時間
 8:30～19:00 月～金(土・日・祝日休み)
 TEL: 0774-52-0191(直通)
 0774-52-0065(代表)
 FAX: 0774-58-0270

予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。
 なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますので、ご了承下さい。

E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp